

～See the World through Anne's Eyes～

英語 B-Ⅱ 班

相原悠里・植野真子・内海彩・廣野厚子・若松奈保子

1. はじめに

英語や英語圏の文化に興味を持った私たちは、赤毛のアンを題材に翻訳について研究する中で食べ物に関する描写が多いことに着目した。約 60 年の隔たりがある 2 つの日本語版『赤毛のアン』と原文とを比較することで、絵と写真を用いたより忠実なアンの世界の表現を目指す。

2. 研究方法

(1) 場面の選択

まず、お菓子やお茶が多く登場する多くのシーンの中から第 16 章と第 21 章の 2 つをピックアップした。

(2) イメージの確立

翻訳された文章・単語から受ける食べ物・飲み物のイメージ・印象を話し合い、それをまとめる。

(3) 原文との比較

ピックアップしたシーンの原文の表現と、自分達がまとめていたイメージ・印象とのギャップを検討した。

(4) 実際の姿

原作での食べ物・飲み物が実際にはどういったものなのかを探る。

3. 結果と考察

上記のことを行っていくにあたり、原作と翻訳された物の間に、場合によって大きな相違点があるのがわかった。

(図 I)

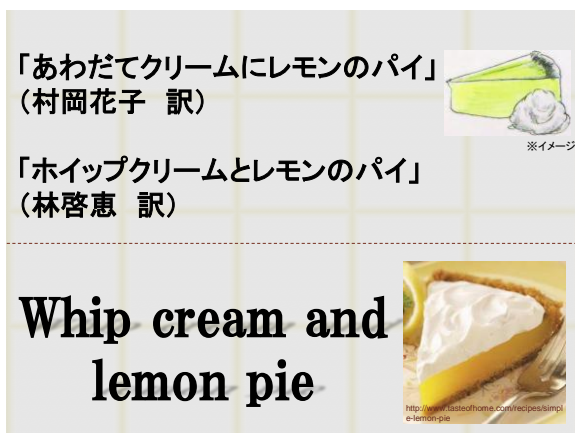


図 I のように、翻訳の仕方によっては読み手に原作通りのイメージが伝わらないこともある。英語を日本語に翻訳していくには英語という言語に精通しているだけでなく、その物語の背景にある歴史や文化をよく知っていなければ、原作の世界観を的確に伝えることは難しい。

その国の文化に理解があるであろう翻訳家でも、翻訳家によって様々な訳をしている。例えば、図Ⅱでは日本人に馴染みのない単語なら読み手に分かりやすいようにそれと似ている日本の物での置き換えが見られる。図Ⅲでは、置き替えも行われている一方、日本にはないものをカタカナでそのまま表現しているパターンもみられる。

(図Ⅱ)

(図Ⅲ)




また、約 60 年前に翻訳された、村岡花子さんによる『赤毛のアン』では、戦時中から翻訳を始めたこともあり、忠実な翻訳を許されなかったということも十分に考えられるだろう。

4. まとめ

Original

"Everything is ready, Diana, except my cake which I'm to make in the morning, and the baking-powder biscuits which Marilla will make just before teatime.
I assure you, Diana, that Marilla and I have had a busy two days of it. It's such a responsibility having a minister's family to tea.
I never went through such an experience before. You should just see our pantry. It's a sight to behold.

➔



※B.P.ビスケット

『Anne of Green Gables』
第21章より

「準備は全部できてるのよ、ダイアナ。お菓子は朝のうちに作ることにしてる。B.P.ビスケットは、マリラがお茶のすぐ前に作るわ。この二日ほど、マリラも私もすごく忙しかつたの。牧師さんのご家族とお茶をするなんて責任重大ね。こんな経験一度もないのよ。ダイアナも一度うちのキッチンのパントリーを見に来てよ。そりゃあすごいんだから。」

翻訳された文章のみで読者にあるものの実際の姿を伝えるのは難しい。そこで、私たちはどういった手段を利用すれば読者に正しい姿が伝わるのかを考えた。その結果、写真やイラストを脚注として挿入するという手段に思い至った。上図は、『Anne of Green Gables』の第 21 章の一部を実際に写真を用いて自分たちで翻訳したものである。

5. 参考文献ならびに参考 Web ページ

- 『ANNE OF GREEN GABLES』 Lucy Maud Montgomery (1908)
- 『赤毛のアン』 村岡花子 訳 (1952)
- 『赤毛のアン』 林啓恵 訳 (2005)